

市史たより

がちまやあ Ga č i - m a j a a

第14号・2008年5月31日(土)発行

年3回 (5・9・1月発行)



編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係

問い合わせ・情報提供先



(098) 893-4430

Fax (098) 893-4434



市史編集係では、平成18年度から「ぎのわんの古地名調査」を行っています。市内の字ごとにガマ(洞窟)やカー(井泉)、道路などの戦前の地名について、地域の先輩方から話を聞き、実際に現地を案内してもらい、現在の様子を確認しています。これまでに宜野湾・安仁屋・新城・嘉数・野嵩・喜友名で調査を行ってきました。

喜友名の集落の南側に、小さな道があります。この道は戦前「ヤクバミチ」と呼ばれ、喜友名の人びとが当時の宜野湾村役場(字宜野湾在)との往来に利用した道でした。この道にはトロッコのレールが敷設され、軽便鉄道の大山駅まで、基幹作物のサトウキビを運ぶ役割を果たしたことで、「トゥルミチ」とも呼ばれていました。その道も今では普天間飛行場によって途切れ、レールも失われましたが、かつてそこには、人びとの生活を支えた道があり、名前(地名)がありました。

宜野湾市は戦争で大きな被害を受け、多くの人的、歴史的な財産を失いました。戦後の基地建設と急速な都市化、生活スタイルの変化は、地形の変化とともに地名の記憶をも消しつつあります。

上の写真は、喜友名での現地調査の様子です。案内する先輩方は、いきいきと当時の思い出を語ってくれました。地名には、その土地とそこで生活してきた人びとの歩んできた歴史・文化の記憶が刻み込まれています。地名を調査し、掘り起こすということは、私たちの生きてきた歴史を掘り起こし、見つめ直すことにつながります。

今回の「がちまやあ」では、市史編集係の取り組む仕事について紹介していきます。

「戦後初期の宜野湾」ができました！

これまでも、市史だより『がちまやあ』にて、「戦後資料編」編集についてたびたびご紹介してきましたが、2003（平成 15）年に「戦後資料編」編集事業を立ち上げて以来、足掛け五年もの歳月を重ね、このたびついに念願の第一弾「戦後初期の宜野湾」（資料編）が発刊しました。

■「戦後資料編」のめざすもの

『宜野湾市史』の「戦後資料編」は、1945（昭和 20）年 4 月の米軍上陸から、1972（昭和 47）年 5 月の「復帰」までを対象として、宜野湾市文化課に残された膨大な行政文書群と、市民の皆さまの証言から、「アメリカ世」における宜野湾市（村）と、そこに住む人びとの生活のありようを明らかにすることを目的としています。

今回刊行される「戦後初期の宜野湾」（資料編）では、対象とする時期を“戦後初期”（1945～53 年）に絞り込むことで、内容をより濃く、より深く掘り下げられるよう設定しました。

■内容

「戦後初期の宜野湾」は、大きく第一部「行政文書にみる戦後初期の宜野湾」と第二部「証言からみる戦後の宜野湾」、そして「宜野湾・沖縄戦後史年表」から構成されています。

第一部「行政文書にみる戦後初期の宜野湾」

第一部「行政文書にみる戦後初期の宜野湾」は、まさしく戦後初期に作成された、膨大な量の行政文書を以下の項目に沿うかたちで編集しました。全体では六章からなり、附章の「村勢要覧」以外の章では、資料を読む手引きとして、以下の先生方による解題を付しました。

章	解 題
第 1 章 再 定 住	平 敷 兼 哉
第 2 章 軍 作 業	鳥 山 淳
第 3 章 地 方 自 治	宮 城 剛 助
第 4 章 教 育 ・ 文 化	仲 村 元 惟
第 5 章 保 健 衛 生	小 野 沢 あ かね
附 章 村 勢 要 覧	



「自 1946 至 1950 庶務統計関係書」
（宜野湾市文化課所蔵）

資料の選別にあたっては、紙幅の関係上、割愛した資料も多く、断腸の思いを禁じえませんが、それでも部の大半を占める人口動態や労務状況に関する統計資料には、奇跡的にもほぼ欠落がなく、そこにみられる数字の詳細な推移は、戦後初期の宜野湾村の社会変動を表しています。

掲載した資料は、なにも宜野湾村文書だけではありません。文化課が所蔵する文書簿冊のなかには沖縄民政府資料が質・量ともに充実しております。これらは沖縄戦後史をよりいっそう掘り下げられうる、きわめて有意義な内容を持つものといっても過言ではありません。

第二部「証言からみる戦後の宜野湾」

第二部では、市民の皆さまから戦後の体験記をまとめました。昭和20年当時の宜野湾村22の字を対象に、141人の皆さまから聞き取り調査を実施しました。調査内容は、戦争体験に始まり、収容所時代の生活状況や村や字の再建、あるいは軍作業の体験などです。

第二部の構成は、宜野湾市内の地域の特徴がみえるようにとの方針から、「戦後の宜野湾」の象徴でもある普天間飛行場を基点として、

「飛行場の北」(野嵩・普天間・新城・安仁屋・喜友名・伊佐)

「飛行場の南」(我如古・志真志・佐真下・真栄原・大謝名・嘉数)

「飛行場の東」(上原・中原・赤道・神山・愛知・字宜野湾・長田)

「飛行場の西」(大山・真志喜・宇地泊)

以上のように、宜野湾市域を四つのエリアに分類し、それぞれの特徴が出るように証言を編集しました。

第二部の解説は吉浜忍氏に執筆していただきました。野嵩区に関しては、戦争当時、民間人収容所が設置された関係から、「野嵩収容所概説」(執筆：清水史彦)を掲載しました。なお、証言の内容を補足する目的から、ところどころに当時米軍が作成した図面や、現在の写真などを挿入しました。

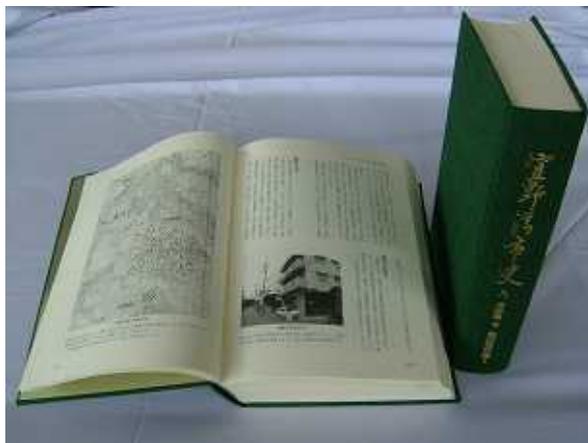
証言として掲載した人数は72人。調査にご協力くださいました皆さま、まことにありがとうございました。紙幅の関係上、割愛せざるをえない証言もありましたが、この点ご了承ください。



■「戦後資料編」～今後の刊行予定～

今回ご紹介した「戦後初期の宜野湾」(資料編)と平行して「戦後初期の宜野湾」(解説編)の刊行を予定しています。「解説編」では、「資料編」を基礎としながら、「よりみやすく」「よりわかりやすく」をモットーに、写真を中心としたビジュアル性を重視し、中高生から一般の皆さままでを対象としました。「解説編」が宜野湾市の内外を問わず、多くの皆さまの手にとられ、ひいては平和学習や総合学習の場でも活用されることを願ってやみません。刊行予定は、なんと来年3月末…。ただいま、編集作業の真っ最中です。

今後とも乞うご期待。



『宜野湾市史』第8巻「戦後初期の宜野湾」
規格：B5版 848ページ 価格2,000円(税込)

「宜野湾市史」ご購入のお問い合わせ

宜野湾市教育委員会文化課 ☎ 098-893-4430

宜野湾市立博物館 ☎ 098-870-9317

まで

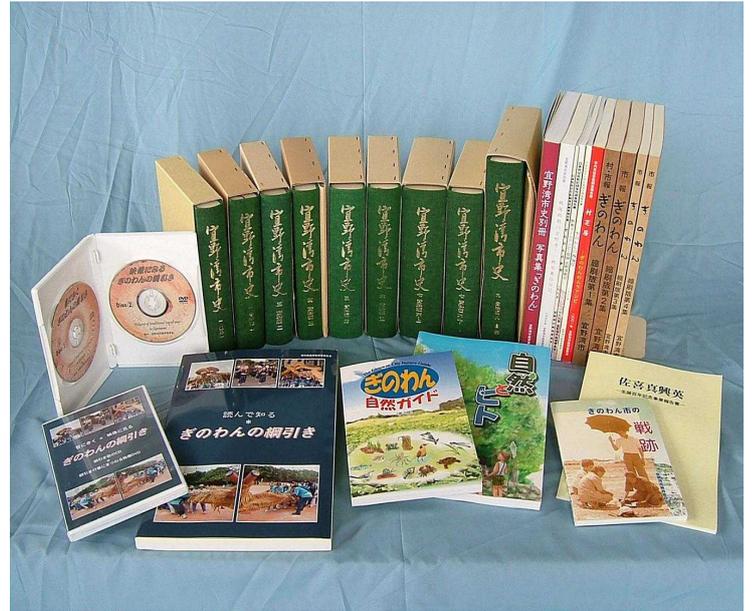
宜野湾市の『^{あざし}字誌』づくり



1. はじめに

宜野湾市の歴史や民俗、自然等をまとめた本といえば『宜野湾市史』があります。このような本は、宜野湾市だけの取り組みでもなく、他市町村でも行われています。このように市町村単位で刊行する一方で「字（あざ）」を基本に字の歴史や民俗、文化財、戦争体験をまとめて刊行する自治会や郷友会（その字の出身者を基本に結成された会）もあります。それは「字」を基本とするので「字誌（あざし）」と呼ばれています。

字誌は「字」が基本なので、市町村史よりも内容の捉える範囲が小さくなりますが、逆にその字の情報が「市史」よりも深くまとめることができる特徴があります。また、字誌の編集委員である区民で編集会議を重ねて、苦勞しながらも完成した際には愛着と親しみのある字誌ができます。



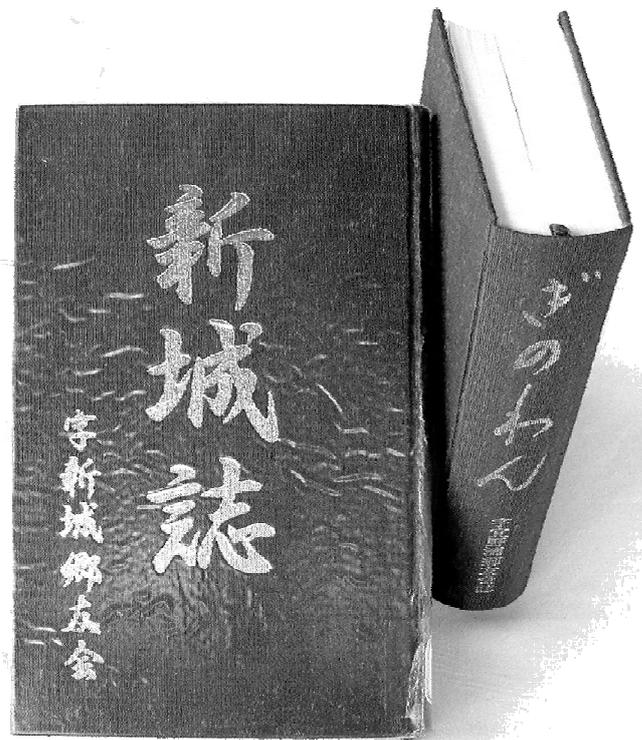
『宜野湾市史』の刊行物
歴史・民俗・自然など、宜野湾市を幅広く掘り起こす。

2. 宜野湾市の「字誌」づくり

宜野湾市内で「字誌」を刊行した字（区）は、字宜野湾の『ぎのわん - 字宜野湾郷友会誌』（1988）と、新城の『新城誌』（2000）があります。いずれも郷友会が発行した本です。この他にも字誌とまでは言い難いのですが、字の成り立ちを若干紹介した公民館落成記念誌や自治会創立記念誌などもあります（7ページ参考）。

これまでの字誌は、一個人で執筆・編集してまとめていましたが、最近では字の有志を募って編集委員会を結成して、テーマに沿って分担し調査、執筆を行い、編集委員会で校正や編集するのが主流です。

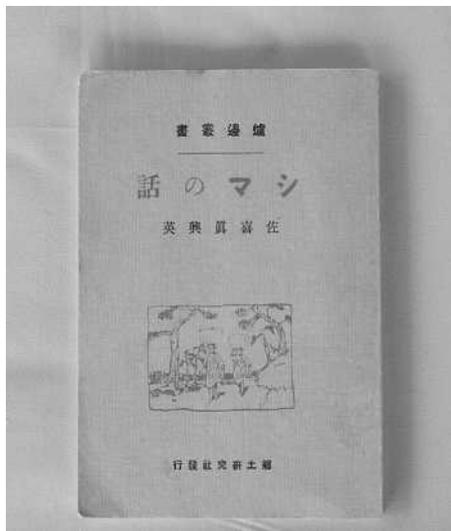
また、宜野湾市では個人でまとめた本には、佐喜真興英（1893～1925）の『シマの話』（1925）や仲松弥詳の『ふるさと愛知』（1980）があります。



宜野湾市内の既刊の「字誌」
『新城誌』（左）、『ぎのわん - 字宜野湾郷友会誌』（右）

『シマの話』は、佐喜真興英が出身地の新城の自治組織・衣食住・年中行事・習慣等についてまとめた本で、沖縄で初めて一地域の民俗誌としてまとめた本です。

それでは、現在、市内で字誌の刊行にむけて編集委員会を組織し、活発に資料収集や聞き取り調査を行っている字宜野湾と伊佐の状況を紹介します。



(1) 字宜野湾

字宜野湾郷友会では、写真集の編集に取り組んでいます。1978(昭和 53)年に字宜野湾郷友会が結成されて、今年、2008(平成 20)年で30周年を迎えることから、その記念事業の一環として写真集を編集しています。2006(平成 18)年11月に第1回目の編集会議を皮切りに月1、2回のペースで編集会議を開催しています。区民や市外在住の字宜野湾出身者へ写真提供を呼び掛けています。2007(平成 19)年6月には、宜野湾区公民館で「むかしのじのーん写真展」と題して、提供された写真を引き伸ばして写真展を開催しました。写真展を通して写真集刊行の周知と写真提供の呼びかけを目的とした展示会でした。5月中には写真も約1,200枚以上も集まり、今年10月の刊行にむけて作業を進めています。

去った2月24日(日)に宜野湾区の公民館まつりで、「写真集じのーん」写真展示会”が行われ、皆さん、展示された昔の写真パネルや写真ファイルを懐かしそうに見ていました。

現在は、4月から編集委員のメンバーも追加して、集まった写真を内容毎に分類する作業に奮闘中です！

字宜野湾の写真集編集委員会では、写真の提供を受け付けています。字宜野湾に関係する写真をお持ちの方は、ご提供をお願いします。



写真集編集委員会の様子(左)と公民館まつりでの展示会(右) (字宜野湾区公民館)

(2) 伊佐

伊佐区自治会では、2005（平成 17）年に有限責任中間法人字伊佐財産保存会からの要請を受けて字誌編集委員会を結成しました。5年計画の字誌刊行を目標に「伊佐の自然、歴史、文化等を記録にまとめ、たくましく生きてきた伊佐区民の気概を次世代に伝える文化的遺産として編集する」ことを字誌の基本とし、戦前・戦後の区民の暮らしや移民、戦争体験、出稼ぎ、学校教育など、テーマ別の聞き取り調査や年齢別の座談会、写真の収集などに取り組んでいます。2006年8月には、市教育委員会文化課と共催で「伊佐の戦前戦後の写真パネル展」を公民館で開催しました。

字誌編集委員会を結成して今年で4年目を迎えます。いよいよ字誌の本文の章立てもでき、各担当者が調査の継続と原稿の執筆に取り組んでいます。

1月の学習会では、収集した資料や写真などの利用方法や掲載にあたっての注意をはじめ、参考文献の利用と明記の仕方、関連資料の所蔵先などの情報交換を行い、執筆にむけて準備を進めています。



公民館でのパネル展（06年8月）

3. 字誌をつくることで…

今回は、宜野湾市内で字誌を編集している2か所を紹介し

ましたが、字誌の刊行を計画している字は、あと数地域あります。宜野湾市文化課市史編集係では、『宜野湾市史』の編集で培った編集方法や資料の照会、資料収集にあたってのノウハウを教えるお手伝いをしています。

沖縄県内では、各地で「字誌」を刊行する自治会や郷友会があり、県内の新聞に字誌発刊の記事を見かけます。沖縄県は他府県に比べて、字誌の編集が盛んだと言われます。たしかに字誌を刊行することは、大掛かりな作業であり、時間や費用もかかり、苦労も絶えません。しかし、字誌づくりを通して先人の足跡を辿ることで懐かしさ、喜び、悲しさを感じると共に、資料収集で家々を訪問することで区民との交流の和も広がり、地域や個々のアイデンティティーを見つめ直すこともできます。また単に過去を振り返るだけの本でなく、次の世代への継承、発展につながります。

特に宜野湾市の場合、市域の一部が普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧などの米軍基地に土地が取られています。63年前の戦争前までは、基地もなく、人びとが家を構えて生活していました。また、戦後は、伊佐・大山・真志喜・宇地泊にかかる西海岸も埋め立てられて市域の面積も広がりました。街は大きく変化しています。戦後生まれも大半を占め、昔の宜野湾を知る人も少なくなってきました。かつての字の様子を知り、次の世代へのメッセージとして字誌は、重要な役割を果たしていくことでしょう。

【参 考】 宜野湾市内の字誌および記念誌等一覧 (2008年5月現在)

■字誌関連

佐喜真興英『シマの話』(1925)

仲松弥詳『ふるさと愛知』(1980)

字宜野湾郷友会『ぎのわん』(1988)

字新城郷友会『新城誌』(2000)

佐真下郷友会「さました 宜野湾市佐真下郷友会誌」第1号(平成4年)、第2号(平成6年)、第3号(平成8年)、第4号(平成10年)、第5号(平成12年)、第6号(平成14年)、第7号(平成16年)、第8号(平成18年)、第9号(平成20年)→寄稿文あり

■公民館落成記念誌・創立記念誌

野嵩一区自治会「公民館落成記念」昭和50年

野嵩三区自治会「創立10周年記念誌」昭和49年→自治会の沿革に関する記録あり

普天間一区自治会「三十周年記念誌 普天間」1994(平成6)年

→自治会発足に関する記述あり

普天間三区自治会「普天間三区創立10周年記念誌」昭和48年→自治会発足に関する記述あり

普天間三区自治会「普天間三区公民館落成記念」昭和56年

旧字普天間祈願行事保存会「祈願行事保存会のあゆみ」昭和47年→字の沿革に関する記述あり

新城区自治会「創立10周年記念誌」昭和48年

新城区自治会「創立20周年記念誌」昭和58年→字の沿革に係る座談会

新城区自治会「創立30周年記念誌」1994年→字の沿革(戦後年表)に関する記述あり

喜友名区自治会「喜友名公民館落成記念」昭和54年→字の沿革に関する記述あり

伊佐区自治会「伊佐公民館落成記念」昭和53年→字の沿革に関する記述あり

伊佐区自治会「伊佐公民館落成記念」平成元年

→字の沿革に関する記述あり(昭和53年刊行の「伊佐公民館落成記念」と内容同じ)

大山区自治会「大山区公民館(大山地区学修等共用施設)落成記念」1997年

→字の沿革に関する記述あり

真志喜自治会「真志喜公民館落成記念誌(附:部落沿革史)」1974年

→字の沿革に関する記述あり

宇地泊区自治会「宇地泊区公民館落成記念」平成2年→字の沿革に関する記述あり

嘉数区自治会「嘉数区公民館兼体育館落成記念」昭和61年→字の沿革に関する記述あり

真栄原区自治会「真栄原地区学修等共用施設(公民館)落成記念誌」昭和56年

我如古区自治会「我如古区公民館(学習等共用施設)落成記念」昭和62年

→字の沿革に関する記述あり

長田区自治会「創立45周年記念誌」昭和59年→字の沿革に関する記述あり

宜野湾区自治会「宜野湾公民館落成記念」昭和54年→字の沿革に関する記述あり

19区自治会「19区学習等共用施設(公民館)落成記念誌」昭和60年

中原区公民館「落成祝賀会(パンフレット)」1970

歴史の証言

慰霊の日・特別展

戦のなかの子ども達

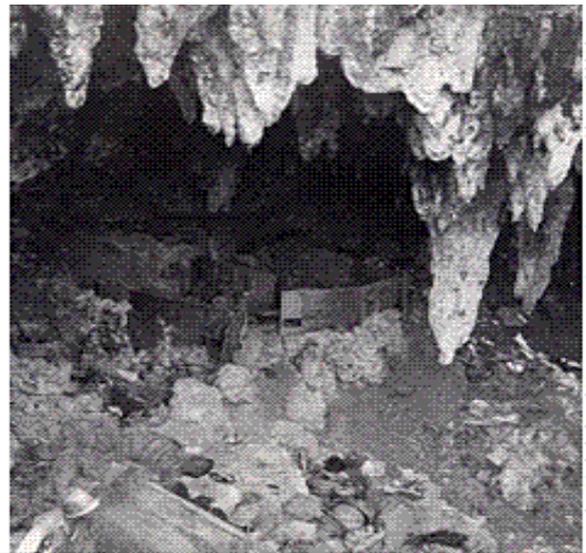


6月8日（日）～7月6日（日）

場所：宜野湾市立博物館

※真志喜1丁目、森川公園となり
（9時～17時、火曜日・慰霊の日は休館）

入館無料！



宜野湾の戦（いくさ）を、知っていますか？

特別展では、沖縄戦における宜野湾の状況を紹介します。

また今年、戦場・疎開先・収容所などの子ども達の様子もとりあげました。

あなたの知っているあの場所の、あなたの知らない歴史を見にきませんか？

※宜野湾の慰霊の塔一覧、今年の慰霊祭日程もあります！